

第3回 即興型ディベート基礎講座 Report

- 日 時 2014年9月6日(土)
- 場 所 本校4F会議室
- 指 導 者 中川智皓先生、社会人5名、九州大学生4名
- 参 加 者 生徒49名(男子19名/女子30名)
- 準 備 物 スクリーン、PC(1台)、プロジェクター(1台)、スピーカー
- 実 践 演 習 ①Space exploration is a waste of money.
②Domestic travel is better than traveling abroad for a school trip.

1

前回までの復習

～大賀隆次先生より～

①Warm-Up (ペアワーク)

AタイプとBタイプの2種類のプリントには英単語が書かれており、その意味を英語で説明して、それが何という単語であるかを言い当てるウォームアップゲームから始まりました。当て終わったペアは着席。懸命に英語で表現しようとしている姿は印象的で、間違ったときの反応などからも楽しんでいる様子が伝わってきました。



②『立論』の復習

『立論』とは論点を立てること、すなわちポイントを作ることです。相手に「そうなんだ」と思わせるのが大切。何が言いたいのかダラダラ述べるのではなく、ポイントを絞って相手に伝えるものです。



2

AREA の練習

AREA とは??

別名「三角ロジック」とも言われるディベートのポイントです。英語で Assertion (主張)、Reason(理由)、Example(例)、Assertion(主張)のそれぞれの頭文字をとってあります。Assertion とは『主張』ですが、その主張を根拠付けるために、Reason (理由) を述べ、その理由に具体性が出るように Example (例) を加える。そうすると Assertion(主張)がさらに具体的になり、より説得ができる、というテクニックです。

どのようにジャッジを納得させるか、この AREA を意識し、15分間の準備時間で理由や例を準備できるように役割分担をすることも大切です。

今回は、まず易しいテーマを使って、AREA の練習をしました。

テーマ①

Kumamoto is a good place.

生徒はAREAのAssertionがよく理解できていないようで、質問が頻繁に出ていました。

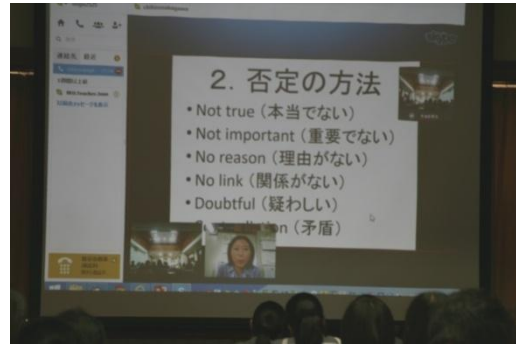
テーマ② Draemon is wonderful

まだ、AREA が理解できずにいる生徒もいた中、数人、よく書けている生徒が発表しました。

テーマ③

We should prohibit couples from kissing in public.

再度 Assertion の説明を受け、理解をし、うまく AREA が書けた生徒が数人発表しました。



テーマ④

Retailers can be allowed to post suspected shoplifter face on line.

テーマ③のときと同様にうまく AREA が書けている生徒数人発表し、その後、中川先生によるモデル AREA を聞き、理解を深めました。



3

講義『反論』

中川先生より『反論』についての講義がありました。反論とは、相手の意見に反対することであるが、どういう風に反論するのが重要で、その手順やポイントについて詳しく講義がありました。

①反論の手順

They said.. (何に対して反論するのか)

However... (どう反論するのか)

Because... (なぜ否定できるのか)

Therefore,... (だから相手の議論が成り立たないと結論付ける)

②否定の方法(useful words)

Not true./

Not important./

No reason./

No link. /Doubtful./

Contradiction.

③部分否定(useful words)

Not always~. / Not~ so much.../

It is rare case.

It is just one case.

以上のような言葉を使って反論をすると、より説得することができます。



4

実践

① **Space exploration is a waste of money.**

各班内で肯定と否定に分かれ、ヒントになる単語のプリントが配布され、生徒は15分の準備時間後、ディベートをしました。



② **Domestic travel is better than traveling abroad for a school trip.**

実践①と同様に分かれ、ディベートを行いました。この回から勝った肯定側／否定側が次の班でディベートをする、というような実際の試合形式のようなリーグ戦で行い、大変盛り上がりました。



5

次回の予告・感想・反省【10分】

今回は、ゲストを迎えて試合形式でディベートを行います。

第1回目とは違い、生徒たちは英語を話すのにずいぶん抵抗感がなくなってきました。上達している様子が見られます。

